

日中対照言語学会会報 (No.33)

2015年11月3日(火)発行

会報担当：続三義

加藤晴子

目次

1. 10月常務理事会拡大会議(2015年10月17日)議事録
2. 日中対照言語学会第34回大会(2015年度冬季大会)のご案内
3. 2015年月例会(2015年3月～2015年10月)

※ 事務局より

1. 10月常務理事会拡大会議(2015年10月17日)議事録

日 時: 2015年10月17日(土) 16:30～18:00

場 所: 大東文化会館 K-302

出席者: 続三義、王学群、安本真弓、高橋弥守彦、白石裕一、石井宏明(敬称略)

[審議事項]

① 第34回大会(2015年度冬季大会)のプログラム

続三義理事長より会場は大阪産業大学サテライト、開催日は12月20日(日)、講演は神戸大学の定延利之先生に依頼したこと、現在のところ3名が発表希望していることが報告された。関西から発表者を4名ほど募り、発表者の人数が確保できない場合は、常務理事が責任をもって探すことが承認された。高橋理事より、発表希望者の締切日の後に拡大会議を開催するべきであると提案がなされ承認された。

② 学会の顧問・名誉会員の推薦

続三義理事長より鈴木義昭先生と鄭新培先生と大川完三郎先生を顧問あるいは名誉会員に推薦することが提案された。鈴木義昭先生を名誉顧問に、鄭新培先生と大川完三郎先生を名誉会員に推薦することが承認され、続三義理事長が三人の先生から推薦の了承を得るようにすることが承認された。

③ 月例会開催の日時

王学群事務局長より月例会の開催曜日及び時間を変更することが提案された。開催曜日は従来通り土曜日とし、時間帯を17:00～19:00に変更することが承認された。

④ 査読委員長

学会誌査読委員長を引き続き、安本真弓常務理事にお願いすることが承認された。

⑤ 学会ホームページ

続三義理事長より学会ホームページのデザインを改良することが提案され、上地宏一常務理事に作業を依頼することが承認された。同時に当学会のロゴを作成することが検討され、ロゴのデザインを募集することが承認された。

⑥ 学会誌投稿規定

現在、ホームページ上の学会誌投稿規定と学会誌に記載されている学会誌投稿規定には投稿方式に関する規定に相違があるが、今後は学会誌に記載されている投稿規定に統一することが承認された。

⑦ 特集号の編集委員長

現在、王学群事務局長が特集号の編集委員長を担当しており、引き続き王学群事務局長に特集号の編集委員長をお願いするが、今後、適当な人物が見つかった場合、その方に特集号の編集委員長をお願いすることが承認された。

⑧ 常務理事

高橋弥守彦常務理事より、鈴木義昭先生、佐藤富士雄先生に代わる常務理事をそれぞれの先生方が勤務している、あるいは以前勤務していた大学から推薦して頂くこと及び、法政大学中国語

学科の先生に常務理事に就任して頂くよう働きかけることが提案された。続三義理事長が鈴木義昭先生及び佐藤富士雄先生に打診し、高橋常務理事が法政大学中国語学科に働きかけることが了承された。

[報告事項]

① 学会ホームページのトップページのデザイン

続三義理事長より、トップページのデザインについて報告され、これからの改善策について意見が交された。

② 学会誌第 18 号『日中言語対照研究論集』原稿募集の進捗状況

王学群事務局長より日本から 17 本、中国から 2 本、合計 19 本の投稿があったことが報告された。

③ 特集号出版の進捗状況

王学群事務局長より、現在白帝社にて印刷中であり、10 月 31 日前に上梓できると報告された。

④ 会費納入の現状

白石裕一会計係より、会員数 192 名中、一般会員 98 名、学生会員 30 名が会費納入済みであることが報告された。そして今年度から、毎月 4~5 名、10 月までに計 28 名もの新入会員があることが報告された。

⑤ 学会誌送付の現状

竹島毅常務理事より書面にて、『日中言語対照研究論集』第 17 号は合計 131 冊が送付済みであること、中国支部への送付冊数を中国支部に問い合わせたが、現在のところ回答がないことが報告された。

2. 日中対照言語学会第 34 回大会 (2015 年度冬季大会)のご案内

記

日 時：2015 年 12 月 20 日 (日) 午前 9:00~午後 5:30 分まで

会 場：大阪産業大学梅田サテライト (JR 大阪駅南口下車、阪神百貨店右の通りを直進、徒歩約 5 分、大阪駅前第三ビル 19 階。大阪市北区梅田 1-1-3。電話 06-6442-5522)

参加費：1,000 円 (会員、非会員共通)

プ ロ グ ラ ム

受付 (9:00-) 総合司会 下地 早智子 (神戸市外国語大学)

大会開催校挨拶 張 黎 (大阪産業大学) 9:20-9:25

開会の辞 于 康 (関西学院大学) 9:25-9:30

研究発表 1. 受身文の日中対照及び中国語教授法に関する研究 9:30-10:10
張文青 (立命館アジア太平洋大学)

研究発表 2. 中国語の間接疑問文の再解釈—諾否疑問文と反復疑問文を中心として— 10:10-10:50
王 慶 (九州外国語学院)

以上司会 彭飛 (京都外国語大学)

休憩 (10:50-11:00)

研究発表 3. 「有点儿」と「一点儿」の意味機能及びその使い分けについて 11:00-11:40
一程度副詞と共起する場合を中心に—
時衛国 (愛知教育大学)

研究発表 4. 日本語中国語の対照研究—日中両言語における使用語彙について— 11:40-12:20
俞 蕙 (岡山理科大学大学院)

以上司会 余維 (関西外国語大学)

昼休み (60分 ビルの階下に食堂街あり) 12:20-13:20

講演 中国語では「数の一致」を守ってはいけないのか？ 13:20-14:20
定延利之（神戸大学） 司会 于康（関西学院大学）

休憩（10分：14:20-14:30）

研究発表 5. 単形体言語と多形体言語 14:30-15:10
高橋弥守彦（大東文化大学）

研究発表 6. 日中両言語の移動事象に関するスキーマの構築 15:10-15:50
高一波（大阪大学大学院） 以上司会 竹島毅（大東文化大学）

休憩（10分：15:50-16:00）

研究発表 7. コミュニケーション行動評価語彙の日中の比較
——「謙虚」と“谦虚”を例にして—— 16:00-16:40
陶 琳（金沢大学客員研究員）

研究発表 8. 加訳(日→中)再論—接続詞(中)・副詞(中)の加訳(日→中)について—
16:40-17:20
藤田昌志（三重大学） 以上司会 王学群（東洋大学）

閉会の辞 加藤晴子（東京外国語大学） 17:20

※昼食の間、拡大常務理事会を開催予定

※当日入会申し込み、学会費の納入も受け付けます。（年会費：社会人 4,000 円、院生 2,000 円）

講演及び研究発表の要旨

講演 中国語では「数の一致」を守ってはいけないのか？
定延利之（神戸大学）

本講演では、いわゆる「数の一致」に関する英語・中国語・日本語の違いを発端として、その違いを理解し、違いを超えた言語間の共通性を捉えるための考えについて検討する。主な結論は以下 4 点である。

第 1 点。「数の一致に関して英語と中国語は正反対の位置にある。英語は数の一致を守らなければならない言語であり、中国語は数の一致を守ってはいけない言語である」という観察は、誤りである。中国語も数の一致を守ることがある。

第 2 点。中国語は数の一致を気まぐれに守ったり守らなかったりしているわけではない。日本語と同じように、当該のモノがアニメシーの階層上、高い位置にある場合ほど、数の一致を守りやすい。

第 3 点。数の一致に対する観察の精度が上がり、観察結果がこのように改まっても、「機能的オーバーキルとその軽減」という考えが常にその都度、観察結果をもっともらしく説明してしまうとしたら、そのような考えは、それ自体は正しいものかもしれないが、現象の直接的な説明原理としては有効なものとは言えない。

第 4 点。数の一致は、「言語表現の不明確性をオーバーキルしよう」という話し手の動機から説明するよりもむしろ、「重複」という現象全体を視野に入れた認知的観点から説明されるべきものではないか。

研究発表の要旨

① 張文青（立命館アジア太平洋大学）

発表テーマ：受身文の日中対照及び中国語教授法に関する研究

要旨：中国語の「“被”字句（受身文）」を教える際に、日中受身文における意味的・構文的・形態的共通点や相違点をより明白に整理することで、学生に教える方がより効果が得られると考える。本報告では、以下の三点を取り上げたい：

（1）日中両言語の双方が受身文として対応できる文の特徴を整理し、受身文専用の言い方や日

中両言語の受身形態動詞における固定語彙の特徴、状態動詞は受身文を構成できないなどという日中受身文の共通点を取り上げる。

(2) 日中受身文形態の違いや其々の特徴を取り上げ、両言語における受身文の叙述主体の相違、話者が受身文を選ぶ視点の相違、直接受身や間接受身の特徴、自動詞はそのまま受身文に使えるかどうかなど、日中受身文の違いをより明確にする。

(3) 中国語の受身文の学習は、上記日中両言語とも受身文として対応できる文や其々の違いを比較しながら、日中受身文の語意的動因やよく使われる形式の違いを説明した上で、初級段階では両言語にとも対応できる文の対訳練習から導入し、中上級段階では、間接・直接受身文の対訳を練習することを通し、学習者に「被」字句の語意的意味、形態や構造に慣れさせる教授法を提案する。

② 王慶 (九州外国語学院)

発表テーマ：中国語の間接疑問文の再解釈 — 一諾否疑問文と反復疑問文を中心として—

要旨：本発表は中国語の間接疑問文の解釈を再考するものである。具体的には、「说」「看」「听」「问」「知道」といった動詞の目的語位置に、(1)から(4)のような諾否疑問文 (yes-no 疑問文) および反復疑問文の生起可能性を議論していく。

- (1) a. 他会来吗?
b. 他会不会来?
c. *他会不会来吗?
- (2) a. 你说他会来吗?
b. 你说他会不会来?
c. *你说他会不会来吗?
- (3) a. 你说过他会来吗? 说过。
b. 你说过他会不会来。
c. ?你说过他会不会来吗?
- (4) a. 你问他会不会来? 他会来。/他不会来。
b. ?你问他会不会来吗?
c. 你问过他会不会来。
d. 你问过他会不会来吗? 问过。

本発表では、間接疑問文の容認判断を石定诒 (2007) などのように「说」「看」「听」などの動詞の「虚化」と「话语标记」に帰結するのではなく、異なる動詞の性質と異なる疑問解釈のしかたによるものと仮定する。

③ 時衛国 (愛知教育大学)

発表テーマ：「有点儿」と「一点儿」の意味機能及びその使い分けについて—程度副詞と共起する場合を中心に—

要旨：本研究は「有点儿」と「一点儿」の意味機能やその使い分けについて、程度副詞と共起する場合を中心に考察し、その共通点と相違点を究明しようとするものである。

「有点儿」は程度副詞として静的状態の描写に用いられ、程度の小さいことを表わすが、しかし、動的状態の制御には用いることができない。それに対し、「一点儿」は数量詞(動量詞)として、静的状態の描写や動的状態の制御に用いられ、動的状態における量性と静的状態における量性のいずれも表現することができる。

「有点儿」と「一点儿」の各々の意味用法の考察や二語に関する対照的考察については、多くの研究の蓄積がある。しかし、この二語と他の程度副詞との共起関係についての考察は未見である。

本研究では、この二語の描写機能・制御機能及び他の程度副詞との共起の有無などの課題について“今天有点太热”“今天太热了一点”“今天稍微有点儿热”“今天稍微热一点”などの表現を取り上げて考察することとする。そして、二語はどのように程度副詞と共起し、どのような文法的

機能があるのか、それぞれがどのような制限を受け、どのように異なっているのかについて追究してゆく。また、今後の課題についても示したい。

④ 俞 蕙 (岡山理科大学大学院)

発表テーマ：日本語中国語の対照研究—日中両言語における使用語彙について—

要旨：日本語の語彙はだいたい和語、漢語及び外来語に分けられる。漢語はきわめて大きな比重を占めている。そのために、中国語を母語とする者が日本語に接したときに、二重の利益を受けることができる。その一つは、漢字というものに親しみを覚えているため、それを文字として目にとらえる訓練がすでに終わっているということである。もう一つは、それぞれの漢字が意味を持っているため、漢字で書かれている日本語を見て、その意味を知ることができるということである。こういう点から言えば、中国人日本語学習者は漢字の既習知識を利用できるということになる。一方、自分の持っている中国語の漢字知識に基づいて、日本語を理解しようとしている。

日本語と中国語の同形語の意味と用法の違いにより、中国の日本語学習者が日本語を勉強する際に、母語の干渉の影響を受けているのかを考える。

日本語と中国語は言語体系が異なるが、日本と中国はともに漢字を使用している。日本語には多くの漢字語が使われており、中国語でも日本語から転入してきた漢語語彙が使用され、両言語の語彙が互いに影響しあっている。日中同形語とは、日中両言語においてともに使われていて、互いに借用関係にあるもので、簡体字と繁体字の区別を考慮しない同じ字形のことである。日中両言語で同じ漢字熟語ではあるが、微妙な意味の差異、ニュアンスの差異によって、誤解が生じたりする場合もある。日本人と中国人が漢字を用いて、母語の文字通りに理解しようとする両者のコミュニケーションの妨げになる可能性がある。

このように、日本語には多くの中国語と同形の語彙があり、その意味と使用には中国語と共通している点がある。これは、日本語学習者にとって、大きな利点であるが、大きな落とし穴でもある。ここでは、日本語と中国語で使用頻度が高い同形語を抽出し、日本語学習者の日本語勉強の年数と同形語の誤用の関係、誤用の原因と母語の干渉の有無を調査する。

⑤ 高橋弥守彦 (大東文化大学)

発表テーマ：単形体言語と多形体言語

要旨：周知のごとく、一般には下記の例文に見られるように、中国語は漢字で文章を書き、日本語は漢字・平仮名・片仮名などで文章（漢字仮名交じり文）を書く。筆者は、この中日両言語の文字上の特徴から、前者を単形体言語、後者を多形体言語と名付ける。

(1) 傍黑的天渐暗严了，窗外的一天雪舞得山夜愈回寂静，柴门吱扭一声唱叫，一尊白狐样的身影细挑挑地立在窑汉面前。(『人民』93-3-111)

日が暮れ、空がいつしか真っ暗になった。小屋の外は雪が降りつづき、山の夜はいよいよ静かだ。しおり戸がギーッと鳴って、白い狐のようにすりとした影が目の前に立った。(『人民』93-3-110)

(2) モノやサービスと交換され、お金は初めて、本来の役割を全うする。(『天声人語』②p.80)
钱本来的作用就是用来交换物品和服务的。(同上、p.86)

本稿では中日両言語のこの形体上の違いが両言語にどのような特徴（共通点と相違点）をもたらしているのかについて検討する。

⑥ 高一波 (大阪大学大学院)

発表テーマ：日中両言語の移動事象に関するスキーマの構築

要旨：“在公园里散步”という中国語表現に対し、日本語では「公園で散歩する」とも「公園を散歩する」とも訳す場合がある。「公園で散歩する」は動作行為として解釈されるが、「公園を散歩する」は移動行為として解釈される。ならば“在公园里散步”は移動表現として認識すべきだろうか。この問題を説明するためには移動事象の構造及び要素間の相互関係を明らかにしなければならない。従来の研究は空間軸（起点・着点など）から移動スキーマを構築しているが、その

みではすべての移動表現、例えば「公園を散歩する」「長い道を走り続ける」のような領域を越さない中間経路型移動表現や「西に向かう」のような方向着点型移動表現が示す移動事象を解釈することができない。本研究は空間軸に加えて時間軸も移動事象を解釈する重要な基準だと考えられる。移動事象において、時間という抽象的概念は具体的には移動主体が他領域に渡っているかどうかという基準に表されることができる。本研究は起点・中間経路・着点という空間軸、及び単領域・多領域という時間軸の観点から移動スキーマの構築を試み、日中両言語の移動表現の差異に見る移動事象の認識の異同を明らかにする。

⑦ 陶 琳（金沢大学客員研究員）

発表テーマ：コミュニケーション行動評価語彙の日中の比較 — 「謙虚」と「谦虚」を例にして—
要旨：グローバリゼーションの拡大にともない、社会的文化的背景の異なる外国人と出会う機会が増えただけでなく、そのような人々と日常的にコミュニケーションをとることも頻繁に起こるようになってきた。その際、社会的文化的背景が異なる人物が対話相手になると、コミュニケーションにおいて誤解の可能性が高まる。誤解の原因は、必ずしも対話相手の用いる言語の知識がこちら側に欠けていることによって起こるとは限らない。それ以外に、文化や社会によって価値観が異なることによる場合もあろう。したがって、一方の話者が「当たり前」だと思っている行動が、もう一方の話者には「不自然な」振舞いと見なされることもありうる。そのような価値判断を具現化するための評価語が、各言語には備わっている。たとえば、「低姿勢」「虚怀若谷」「谦恭」「高慢」「生意気」などがそれにあたる。コミュニケーション行動評価語彙は、個々の言語社会においてコミュニケーションの前提となる習慣や社会的文化的価値観を反映する。各言語のコミュニケーション評価語彙とその意味範囲を知ることは、相互理解のための重要な視点となるであろう。

この小論は日本語と中国語に共通して存在する評価語「謙虚」に関連するコミュニケーション行動評価語彙を比較する。比較には、ほぼ同年代に発行された現代日本語辞典、中国語辞典、日中辞典、中日辞典、類義語辞典、シソーラス辞典などを利用する。これにより、現代の日本社会と中国社会においてそれぞれ通常（当たり前）とされるコミュニケーション行動【謙虚】がどのようなものなのか、その異同を明らかにする。辞書を調査した限り、【謙虚】関連語彙は、日本語と中国語においてはさまざまな表現があることがわかった。共通する点として、【謙虚】に関わる語彙は、両言語とも、“尊人贬己”の文化がある。自分を低く位置づけることで相手に対して相対的に敬意を表し、自らの社会的評価を高めようとする価値観に基づいているということである。自分に対する他人や世間の評価を気にするという価値観が反映されていることを立証する表現でもある。この点に関しては、【謙虚】という行動に日中の顕著な違いは認められない。相違点としては、次の点が指摘できる。日本語社会では対人関係や社会関係の中で、他人の目または社会的評価を気にして対人接触における他人の気持ちを重んじる傾向がある。他方、中国では社会的な評価と同様に対人接触における個人的な情意や信義を重視していると考えられる。また、日本語と中国語共に【謙虚】に関連する語には、否定的な意味のものが多く、しかしながら、現代中国語には日本語のような「低姿勢」「頭が低い」「腰が低い」肯定的な評価語彙が存在してない。その代わりに、“低调”のような新しい肯定的な評価語が頻繁に使用されるようになっている。

このように、日本と中国は対人関係、特に相手に対して“尊人贬己”な感情を持ち、「和」を重んじていることがわかった。【謙虚】は対人関係において「和」を保つ配慮行動であり、社会での円滑なコミュニケーションの一要因といえよう。

⑧ 藤田昌志（三重大学）

発表テーマ：加訳(日→中)再論—接続詞(中)・副詞(中)の加訳(日→中)について—
要旨：日本語表現が中国語表現になる場合、日本語表現にない接続詞(中)・副詞(中)が加訳(日→中)される場合について、三つの現代日本文学作品と対応する中国語訳を資料として、その諸相を

事例研究として考察した。拙著(2007)の加訳(日→中)について五、を継ぐものである。三作品の副詞、接続詞の加訳(日→中)使用頻度数ランキングは1位“于是”(62例。以下、数字は例数を表す。)、2位“一直”(49)、2位“其实”(49)、4位“然后”(39)、5位“竟”(16)、“竟然”(18)(合計34)、6位“实在”(28)であった。三作品の個別的特徴と全体的特徴について発表する。全体的特徴(上記使用頻度数ランキング参照)としては“于是”には「文切り」「区切り」の機能があり、“一直”はほとんど時間的連続の意味(48/全体49。以下同じ。)で加訳(日→中)され、“其实”は修正・補充の意の加訳(日→中)が圧倒的に多かった(46/49)。“然后”の加訳(日→中)は『向日葵の咲かない夏』→《向日葵不开的夏天》が圧倒的に多く(31/39)、記者の「時間的順序」明示化への嗜好性が反映されている。“实在”については「強調」の意のものがすべて(28)で、修正・補充・反語の意の“实在”は“其实”によって代替される、つまり“实在”と“其实”の使い分け、「棲み分け」現象が生じていると考えられる。

3. 2015年月例会(2015年3月～2015年10月)

これまで、月例会情報として、ネットで知らせたり、学会のホームページに載せたりしているが、たまたま学会のホームページに掲載していないものもあった。ここでは、学会のホームページに掲載していないものを、要旨も添えて載せる。学会のホームページに載せているものに関しては、開催日時と場所、発表者氏名とテーマのみ記載する。

3月14日(土) 18:00～20:00

場所：大東文化会館 K-403

発表者：洪安瀾(大東文化大学博士後期課程)

発表テーマ：動態存在文に見られる名付け的な意味について

4月18日(土) 18:00～20:00

場所：東洋大学第1会議室(2号館3F講師控室隣の部屋)

発表者：続三義(東洋大学)

発表テーマ：“好+语气助词”组合——“好嘞”的语义和功能

根据《现代汉语词典》的解释，汉语的语气词“嘞”，“用法跟‘喽’(lou)②相似，语气更轻快些”。而汉语的“喽”，“用法如‘了’(le)①，用于预期的或假设的动作：(例句省略)②用法如‘了’”(le)②，带有提醒注意的语气：水开喽|起来喽”。而“了”，则是“①用在动词或形容词后面，表示动作或变化已经完成。a)用于实际已经发生的动作或变化：(例句省略)b)用于预期的或假设的动作：(例句省略)②用在句子的末尾或句中停顿的地方，表示变化或出现新的情况。d)表示催促或劝止：走了，走了，不能再等了!|好了，不要老说这些事了”。但是诸如下列例句中的“嘞”不能用“了”或“喽”来替换。

一名服务员拿着点菜单过来，热情地问：“先生，想吃点什么？”“给我来半斤水饺，快一点……”吃水饺耽误的时间不长，刘建波只不过是填补肚子，并没有什么讲究。

“好嘞。”服务员用笔在点餐菜单上鬼画符般地写上了“半斤水饺”等字样，随即拿着点餐单离开。

本文试图从情态的角度将“好嘞”作为一个应答词语来进行研究，指出其语义和功能。

6月20日(土) 18:00～20:00

場所：東洋大学第1会議室(2号館3F講師控室隣の部屋)

発表者：白石裕一(中央大学兼任講師)

発表テーマ：「人魚構文」と同じ意味を表す中国語の構文

角田(2011)が言う「人魚構文」とは、「[私は一人取り残された]思いだ」のような文のことである。はじめに節があり、名詞が続いて、「だ」で終わる。そして同時に、「私は思いだ」などとは言えない文のことである。したがって「[私は一人取り残された]人間だ」は「人魚構文」ではない。

「人魚構文」は中国語において、存在こそすれその数はきわめて少ない。“她只有二十岁的样子”などが中国語の「人魚構文」ということになるだろう。

本発表では中国語の「人魚構文」を取り扱うのではなく、“主語(人)+動詞+定語+名詞”の構文に限定して、「人魚構文」と同じ意味を表す場合、いったいどのような動詞をとるのかということ（或いはとらないということも含めて）明らかにしたい。

このことに関連して、井上(2010)は「体言締め文(=人魚構文)」を意味的に大きく「所有型」と「所在型」に分けている。つまり、“主語(人)+動詞+定語+名詞”の“動詞”も“是”だけではなく、“有”や“在”なども用いられることが予想される。

さらに最後に“一副……様子”名詞句述語文の談話における機能も明らかにしたい。

7月18日(土) 18:00~20:00

場所：東洋大学第2会議室(8号館中2階)

発表者：嚴馥(慶應義塾大学非常勤講師)

発表テーマ：日中同形語の語構成と造語力—中国語の“狗・犬”と日本語の「犬・狗・ドッグ」を中心に—

日中同形語は似て非なるものである。各々の言語体系における位置が異なり、置き換えられない場合が多いにもかかわらず、共通の字形と類似的意味により、学習者にとっては誤用しやすい。そのため、語のレベルでの研究調査が必要である。本報告は、中国語の“狗・犬”と日本語の「犬・狗・ドッグ」の複合語を研究対象にする。日中同形語の複合語を比較する際、「全体的意味を考えるだけで不十分で、構成要素(語基)の意味や語構成、さらにはその語の成立のメカニズムにまで立ちいって考える必要がある」(荒川 2002)ため、本稿では上記の日中同形語を語構造と造語力の二つの側面から考察していく。考察の結果、中国語では犬自体に重点を置き、[狗+身体部位]という形をとる複合語が多く、比喩表現と固有名詞も同じ語構成が見られることに対し、日本語では[犬+動名詞]という構造が多く、犬関連の動作に基づき、隣接性のある物を指す傾向があることが分かった。

9月26日(土) 18:00~20:00

場所：大東文化会館 k-402

発表者：洪安瀾(大東文化大学博士後期課程)

発表テーマ：「発見」を表す存在表現

10月17日(土) 18:00~20:00

場所：大東文化会館 K-302

発表者：小路口ゆみ(大東文化大学博士後期課程)

発表テーマ：《語言自邇集》初版における“把”構文の一考察

事務局より

- 1) 学会の入会は、日中対照言語学会ホームページ上で随時受け付けています。ただし、申し込みができない場合は王学群事務局長(Lwn365@yahoo.co.jp)、または竹島毅常務理事(sisi@kkd.biglobe.ne.jp)までご連絡をください。年間会費は社会人4,000円、院生2,000円となっています。皆さんの入会を歓迎いたします。
- 2) 毎月の例会の開催は、郵送ではなく、メールにてご連絡させて頂いております。不明の方がいらっしゃいますので、ぜひお知らせいただきたくお願い申し上げます。また、メール変更につきましても、同様にお願い申し上げます。
- 3) 年間会費の納入につきましては、大会開催時に受け付けております。また、都合により出席されない会員に対しては次号の会報送付時に請求書を同封させていただきますので、ご納入のほどよろしくお願いたします。
- 4) 次号学会誌の原稿の締切りは、例年通り9月末日とします。